

読響

Yomiuri Nippon
Symphony
55th
Orchestra
55th Anniversary

ベートーヴェンを得意とする
古典派演奏の旗手

鈴木 秀美 (指揮)

Conductor: HIDEKI SUZUKI

ベートーヴェンが得意とする
古典派演奏の旗手
鈴木 秀美 (指揮)

クラシックは新しい!

ヒデミが振れば、世界は踊る。

二つの楽器を自在に操り、
欧州で注目を浴びる異才

ダヴィッド・ゲリエ
(ホルン&トランペット)

Horn&Trumpet: DAVID GUERRIER

小森谷 巧 (コンサートマスター)

Concertmaster: TAKUMI KOMORIYA

ハイドン: 歌劇「真の貞節」序曲

HAYDN: "La vera costanza" Overture

ハイドン: ホルン協奏曲第1番 二長調

HAYDN: Horn Concerto No. 1 in D major

ハイドン: オラトリオ「トビアの帰還」序曲

HAYDN: "Il ritorno di Tobia" Overture

ハイドン: トランペット協奏曲 変ホ長調

HAYDN: Trumpet Concerto in E flat major

ベートーヴェン: 交響曲 第7番

イ長調 作品92

BEETHOVEN: Symphony No. 7 in A major, op. 92

読売日本交響楽団 第570回 定期演奏会

2017 7.12<水>19:00

東京芸術劇場コンサートホール

S ¥7,500 A ¥6,500 B ¥5,500 C ¥4,000

Subscription Concert, No. 570

Wed. 12th Jul. 2017 19:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

読響チケットセンター 0570-00-4390

(10時-18時・年中無休)

<http://yomikyo.or.jp/>

ベートーヴェンの九つある交響曲の中で、愛称がないにもかかわらず極めて高い人気を誇るのが交響曲第7番イ長調だ。「ベト7」の略称で親しまれる傑作は、テレビドラマのテーマ音楽でも一躍有名になった。なぜ、そこまで愛されるのか。それはワーグナーが「舞踏の聖化」と評したようにリズムカルな要素にあふれ、躍動的な曲想が聴き手の心を鼓舞するからだろう。

古くから名演の多い「ベト7」だが、21世紀に生きる私たちがいま最も聴くべきは、古典派の作品演奏で重要なキーワードとなった「様式感」に心を配った快演だろう。20世紀の末に大きく進んだ作曲当時の楽器や奏法に関する研究は、曲にふさわしい様式感の問題をクローズアッスし、オーケストラ演奏に大きな影響を与えた。

これまで古楽器楽団で活動し、様式感を磨いてきた指揮者たちが、現代のオーケストラにも活動の場を広げているのには、こんな時代背景がある。その日本での旗手のひとりが、鈴木秀美なのだ。

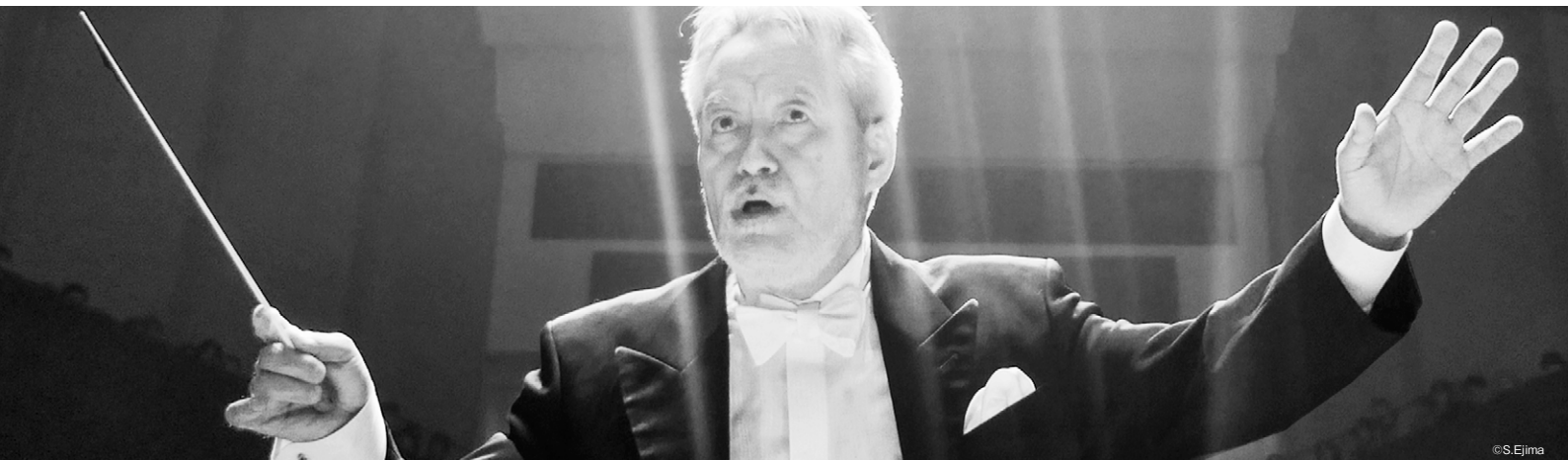
血 沸 き 肉 躍 る 「ベト7」の マジックへ

バロック・チェロの名手である鈴木秀美は2001年から古楽器楽団を主宰し、古典派の作品に取り組んできた。近年は一般のオーケストラに客演する機会が急増し、手腕を遺憾なく発揮している。読響とも2015年8月にベートーヴェン「英雄」を共演し、大成功を収めた。

弓を指揮棒に持ち替えた彼の解釈は、激しいテンペラメント(情熱的で起伏の大きな気質)が特徴だ。「リズムの神化」と作曲

家リストが称えた「ベト7」であれば一層、血沸き肉躍るマジックを鮮やかに演出してくれることだろう。

古典派演奏の泰斗らしく、前半はハイドンの作品で固める。二つの珍しい序曲とともに、ホルンとトランペットの協奏曲を演奏する。しかも両方の楽器を究めたフランスの技巧派、ダヴィッド・ゲリエがソリストとして両方を披露するのだから、興味が増するのは当然だ。まったく違う二つの楽器をどう操るのか、スーパー奏者の神技を目の当たりにできる、またとないチャンスだ。鈴木秀美が支えるバックも、一段と冴えわたるに違いない。



指揮 **鈴木 秀美**
Conductor **HIDEMI SUZUKI**

チェロの名手として知られ、指揮活動にも力を入れている「古典派のスペシャリスト」。1957年神戸生まれ。桐朋学園大学卒業後、オランダのデン・ハーグ音楽院に留学し、巨匠A.ビルスマに師事。ブリュッヘンが創設した「18世紀オーケストラ」やS.クイケン率いる「ラ・プティット・バンド」に在籍。94年から2000年までブリュッセル王立音楽院でバロック・チェロの教授を務めた。兄の鈴木雅明が設立した「パッサ・コレギウム・ジャパン」では14年まで首席チェロ奏者として活躍。00年に帰国した後は、ソリスト、室内奏者として幅広く活動を展開している。01年、オリジナル楽器による「オーケストラ・リベラ・クラシカ」を設立し、音楽監督として高い評価を得ている。指揮者として名古屋フィル、神奈川フィルなどを振るほか、オーストラリアやポーランドにも招かれるなど国際的に活躍。現在、山形響の首席客演指揮者。読響とは15年8月にベートーヴェン「英雄」で初共演成功を収め、今回が2回目の客演。

ホルン&トランペット **ダヴィッド・ゲリエ**
Horn&Trumpet **DAVID GUERRIER**

ホルンとトランペット、二つの楽器を巧みに操るフランスの異才。1984年生まれ。7歳でトランペットを始め、リヨン高等音楽院でピエール・デュトに師事。ジャン＝フランソワ・マドゥッパにバロック・トランペットを学ぶ。2000年に満場一致の最優秀で卒業。その後ミシェル・ガルサン＝マルーとローラント・ベルガーにホルンを学ぶ。モーリス・アンドレ国際コンクール、マルクノイキルヘン国際コンクール、ボルチャ国際コンクールなどで優勝。03年のミュンヘン国際コンクール(トランペット部門)では、M.アンドレ以来の40年ぶりに1位を受賞。04年から09年までフランス国立管のソロ・ホルン奏者を務め、09年から10年までルクセンブルク・フィルのソロ・ホルン奏者を務めた。これまでにクルト・マズア、ヤノフスキ、フェドセーエフ、クリヴィヌらの指揮で、ウィーン響、北ドイツ放送フィル、フランス放送フィル、リヨン国立管、スイス・ロマン管などと共演。リヨン高等音楽院で教鞭をとっている。



読響日本交響楽団 第570回 定期演奏会

2017年 **7月12日** (水) 19時開演

東京芸術劇場コンサートホール

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111

●JR・西池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分(※ 駅地下通路2b出口と直結しています)

【読響サービス】東京芸術劇場には一時託児施設があります(公演1週間前までに予約)。長谷川キャリアサポート株式会社 わらべうたBS課 0120-415-306(予約受付:平日9時~17時) 学生券:学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター **0570-00-4390**

※10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

※座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

読響ホームページ <http://yomikyo.or.jp/>